

フリガナヲトンボノゴトク書キニケリ

藤田湘子

厳密に言えば、季語の入っていない無季の句だろう。

「トンボノゴトク」と直喩で蜻蛉を用いているが、これでは季語として働かず、単なる名詞に過ぎない。

しかし、昭和五十八年五月、一日十句の修行中だった湘子にとっては何でもあり。つまり、これまでの形を壊し、俳句の約束や決まりからも自由になり、新たな可能性を模索していたのだと考えられる。

象形で、テンテンタテタテ、ヨコヨコ、ヨコヨコ。

さて、何の字に付けられたフリガナだったのだろうか。

この一句の中に「書」の一字。縦棒と横棒しかない漢字を残してあるところが、まさにオシヤレな湘子流の遊び心である。

1983年 (558.05.18作) 第六句集『一個』 鑑賞・轍郁摩